

題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。



鹿沼市立北犬飼中学校 (氏名) 菊地 菜央

今回の派遣事業で戦争はどれだけ悲惨で残酷なものなのか実感することができました。昨日までの楽しい日常がたった1つの爆弾で一瞬にしてこわされてしまったり、その後生き残った人も後遺症や差別に苦しんだり、戦争をして得られるものは何もないということが分かりました。特に心に残っているのは、資料館に展示された被爆者の方の証言や遺品です。今まで、教科書やテレビでしか見ることができなかったものを見て、77年前同じ日本でたくさんの方が苦しんだことを実感できました。原子力は、大きなエネルギーとして生活に利用されているが、人殺しの材料にもなることが分かりました。私たちは、過去に目をそむけず、今後戦争や核兵器の利用を防ぐため、伝承することが大切だと思います。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立北犬飼中学校 (氏名) 菊地 菜央

私は今まで戦争を実感する機会があまりありませんでした。しかし、ウクライナ侵攻の報道を見て、これは本当に起きているのか、恐ろしい、助けることのできない無力さを実感しました。特に、数々の報道の中で衝撃を受けたのは、自爆型ドローンの攻撃の様子です。人の手によって行われてきた戦争が、感情がともなわない攻撃をするところまで来てしまったのかと、とても悲しくなりました。ドローンは写真の撮影や農業など、人を助ける便利な道具として使われているのに、人殺しの道具になってしまったんだと感じました。科学や技術の発展が、人を助けることではなく、人を殺すことに使われたのは、過去の戦争でも同じことです。過去の過ちを繰り返すほど愚かなことはありません。これ以上の過ちをおかす前に、侵攻ではなく対話での解決をはかるべきだと思います。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立北犬飼中学校 (氏名) 菊地 菜央

今の日本は、日本国憲法に定められた「平和主義」・「戦争放棄」によって平和が守られています。しかし、最近では北朝鮮のミサイル発射や米中の対立など、戦争のない日本の平和を脅かすたくさんの問題が起きています。また、戦争以外の観点から平和を見ると、差別やいじめといった平和を脅かす問題も多発しています。これまでの戦争から学んだように、小さな争いはやがて大きな争いへと変化します。今ある日本の平和はもう二度と戦争を繰り返さないという強い意志から成り立っています。この戦争のない日本を保ち続けるためには、小さな問題から解決していく必要があると思います。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立北犬飼中学校 (氏名) 菊地 菜央

私にとって平和な社会とは、全ての人が自分に自信を持っていて、将来に希望を持つことができる社会のことです。多くの方は「戦争がない＝平和」と考えると思いますが、戦争がなくなったとして、それは全世界の人の平和になるのかと私は考えます。世界には、貧困や偏見、家庭内暴力などに苦しむ人がたくさんいます。戦争がなくなったその先の未来を考えることも必要だと思います。そういった問題が解決されたときに真の平和な社会です。そんな社会を作るためには、価値観の違いを認めることが一番大切です。共感ではなく、認めることを求めているのです。それが実現すれば、少なくとも身の回りの平和な社会は実現するのではないのでしょうか。